

11月2日(月)

アテネ市

★ アテネ市役所



アテネ市庁舎玄関ホールにて

- 対応者
 - ・ ダスカラキ市長代理国際担当助役(議員)
 - ・ コンスタントポウロス国際担当課長 他 4 名

- ダスカラキ市長代理国際担当助役ご挨拶
 - ・ アテネはギリシャ最大の町であり、ヨーロッパの名前の元になった都市でもある。このアテネによろこお越しいただいた。皆様を歓迎したい。(ヨーロッパの語源はギリシャ神話に登場する女性「エウロペ」)

- アテネ市の概況
 - ・ ギリシャの人口は約 1,100 万で、国民の 98%はギリシャ正教。広義のアテネ市には 320 万人が住んでおり、国の人口の 3 分の 1 を占める。
 - ・ 20 世紀末期、アテネでは車が増え、排ガスによる大気汚染などにも悩まされた。パルテノン神殿にもスモッグを原因とするカビなどが生え、かなり痛みが進んだ時期がある。
 - ・ アテネ市内の渋滞緩和のために、平日にアテネ市内に入る乗用車はナンバープレート末尾の数字が奇数か偶数かで分け、入市制限を行った。しかし、アテネの人は、その対策として、新車と中古車の 2 台を持つことになり、駐車場を持たない家が多いため、路上駐車が蔓延し、さらに渋

滞を加速させただけに終わっている。(現在も車の購入時の車庫証明は不要)

- 10年前より新築住居には駐車場の設置が義務付けられたが、以前の建物が多く、また、市内に有料駐車場も設置したが、停める人は殆どなく改善されていない。
- 違法駐車を取り締まりは、事前にこの地区を取り締まるとメディア等で放送してから行うので、最終的にはまったく効果がない。

主要産業は海運業と観光である。ただし、観光は年により波があり、また3月から8月までは仕事があるが、秋や冬になると観光客も来ず、仕事がなくなる。

(質問) 予算規模は。

(回答) 概ね30億ユーロである。日本円にして約3,700億円。



ダスカラキ助役と意見交換



アテネ市の現状について説明を受ける

○ 議会制度について

(質問) 議員定数とその内訳は。

(回答) 定数は45名。政党は4つに分かれている。中道右派の新民主主義党(ND)、中道左派の全ギリシャ社会主義運動(PASOK)の2大政党で、他に共産党(KEE)、左翼政党の連立である左翼進歩連合(SYN)がある。現在、アテネ市議会の与党はNDで27名である。(市長代理はNDのため、言及していないが、先月の2009年10月のギリシャ総選挙では、NDはPASOKに敗れ、5年ぶりの政権交代が行われた。)

(質問) 区議会はあるか。

(回答) 7つの区議会がある。区議会の議員は市議会議員も兼ねている。



ギリシャ神話の壁画が施された議場



議場の演壇にて

○ ギリシャの福祉施策について

(質 問) 大阪市における 2008 年の合計特殊出生率(1 人の女性が一生の間に子どもを生む数)は、1.22 となっており、人口維持に必要といわれる 2.1 を大きく下回り、少子化の進行が進んでいるが、アテネ(ギリシャ)の状況はどうなっているのか。

(回 答) アテネ市の統計はないが、ギリシャでは 2004 年に 1.32 とのデータがあり、日本と変わらず低い水準である。ちなみに EU では、フランス 2.005、スウェーデン 1.85 など高い国もあるが、ドイツ 1.34、スペイン 1.34、イタリア 1.33 など低い国も多い。

(調査年度が異なるため正確な比較ではないが、ギリシャの 1.32 は EU で最も低水準である。)

- ・ 少子化対策や高齢化対策は、アテネ市では直接行っておらず、国として対応している。広義のアテネ市の人口は 320 万人であり、アテネを中心とする生活圏と言えるアッカイカ県では 400 万人になる。
- ・ 60 歳以上の人口に占める割合は日本と同じで、約 25%。4 人に一人である。男女の平均寿命は女性 83 歳、男性 79 歳だったと記憶している。
(正式なデータでは、2005 年の数値になるが、高齢化率 (65 歳以上) が 18%(日本 20%)、平均寿命は女性 80.9 歳 (日本 85.5 歳)、男性 76.7 歳 (日本 78.6 歳)、男女平均寿命が 78.9 歳で世界 21 位(日本は 82.3 歳

で世界 1 位)である。

- ・ 高齢者対策として、アテネ市には 20 の‘カピ’と呼ばれる老人クラブがある。宿泊は出来ないが高齢者の憩いの場となっており、遠足などのサークル活動も行っている。
 - ・ カピは今は 20 箇所だが、来年 3 月にはさらに 4 箇所のカピを作る予定である。カピには 60 歳以上の男女が自由に訪問できる。利用も無料である。
 - ・ エクスカーション(遠足)などの活動に要する経費については、3 分の 1 程度が本人負担となっている。また、ここでは、小物などの製作活動もしているが、作品はイースターやクリスマスなどで売り出され、その収入の一部はカピの運営費用に当てられている。
 - ・ 福祉についてはギリシャ、アテネはこれから充実させていくという状況である。国が運営している入居可能な高齢者施設は 1 箇所。他は全て民間が運営しており、ある程度の資力がないと入れない。昔は大家族で、若い世代が親を見ていた。今は別居が多く、理想はスーパの冷めない距離だが、地価の関係もあり難しい。そのため近隣に身寄りのない一人暮らしの高齢者世帯も多い。
 - ・ 民間の施設の数は統計を取っていないため把握できていない。キリスト教社会であり、教会も高齢者を支援している。また、ボランティア活動もあり、どの組織がどれだけ高齢者を支援しているかは複雑で分からない。数字は把握できていないが、実際には、かなりの数の組織や施設が高齢者を支援していると思う。
 - ・ アテネでは今、高齢者施策として新しい方針を作っている。高齢者のいる家庭を訪問し介護する制度を設けようとしている。
 - ・ このプログラムはアテネ市独自のもので、EU 加盟国の支援を受けて 2013 年から始めようと準備している。1998 年から 2 つのブロックで試行的に始めていたが、2013 年より本格稼働になる。
 - ・ 同事業費の 75%は EU の支援。25%はギリシャの国の支援で行う(アテネ市は費用負担をしていない)。このプログラムは、歩行して外出できない在宅の高齢者支援が目的としており、支援対象はアテネ市民に限定されている。ただし、段階的に支援の輪を広げていき、最終的にはギリシャ全土のプログラムとしたい。
 - ・ 在宅高齢者の中でも特に、厚生年金の低い人など低所得者や歩行困難などで生涯外出が出来ない人を主な対象としている。
- (質 問) 本プログラムは EU 加盟のメリットか。
- (回 答) そうである。EU の支援金を利用している。
- ・ ギリシャでは、ボランティア活動は活発で、高齢者に対する支援要請に

はすぐに人が集まる。アテネ市の住民はオリンピックであれ、高齢者対策であれ、すぐにボランティア活動ができるようスタンバイできている。例えば、難民が現在アジアから大量に流入しているが、衣服や食べ物もない人たちに、教会の援助を受けて、毎日 3,000 人分の食事をボランティアが提供している。

- また、失業者は、ドラッグストアやスーパーなどで無料で商品の支給を受けることのできる制度もある。
- さらに、アテネを 7 つの地域に分け、各地域に無料の診療所を設置しており、収入のない人が、無料で診断や投薬を受けることのできる施策も行っている。
- 少子化対策については、遅れているといわれるが、アテネには 100 箇所保育所があり、6 ヶ月から預けることができる。保育時間は 8 時から 17 時までとなっており、土日は休みである。延長保育の制度はないが、ギリシャでは夫婦ともに揃って夜遅くまで働くことはまずないため、問題となっていない。
- さらに、保育所や幼稚園では子育てについて、親から相談を受け、話を聴く場も設けており、アドバイスも行っている。

○ 2004 年オリンピック跡地について

- アテネはオリンピック発祥の地であり、紀元前 776 年に第 1 回のオリンピックが開催された。そして近代オリンピックの第 1 回も 1896 年に、このアテネの地で開催された。
- 21 世紀最初の夏季オリンピック(2004 年開催)は、原点回帰を訴えたギリシャ・アテネで開催された。アテネは近代オリンピック開催 100 周年を記念した 1996 年大会にも立候補したが、この時はアトランタに敗れている。
- 2004 年の会場は、マラソンのように 1896 年とまったく同じコースで、同じ会場にゴールする、また、古代オリンピックの会場であるオリンピア遺跡で砲丸投げの競技が行われるなど、オリンピック発祥の地を意識し、かつ過去の施設を再利用した会場もあるが、競技種目が増えているため、新設した会場も多い。
- アテネ・オリンピック・スポーツ・コンプレックスは、スペインの建築家、サンティアゴ・カラトラヴァが設計したものである。そして、ギリシャ最大の屋内競技場である「オリンピックホール」を始め、多目的スタジアム、水泳競技場、テニス場、自転車競技場などからなる総合運動施設で、各種競技のメイン会場であった。
- 市内中心部より渋滞がなければ車で 15 分程度。オリンピックスタジア

ムでは、欧州サッカー連盟（UEFA）の決勝戦が数回開催されている。しかし、全体としての利用率は高くはない。

- もう一つの主要な新設会場である、ヘレニコン地区は、旧アテネ国際空港の跡地を利用した競技場群で、野球、ソフトボール、バスケットボール、ホッケーなどの会場からなる。市内中心部から車で 30 分程度。
- 市内から離れていることや、野球やソフトボールなどはギリシャに競技人口が極めて少ないため、殆ど使用されていない。前政権が民間への売却を検討したこともあるが、利権等の問題もあり、市民から反対され頓挫し、現在も手付かずのままとなっている。
- アテネは、生活圏の人口でも 400 万しかなく、国全体でも 1,100 万人しかいない。そのため、各種スポーツ人口も少なく、こうした競技場の利用率は極めて低い。
- また、政権が新民主主義党 (ND) と全ギリシャ社会主義運動党 (PASOK) の交替が頻繁（1974 年 ND、1981 年 PASOK、1990 年 ND、1993 年 PASOK、2004 年 ND、2009 年 10 月～PASOK）にあり、政策が一定していない。更に、利権に絡む汚職や昨年 12 月のアテネでの大規模暴動などの社会不安から、国民、市民の反対もあり各施設の用途が決まらず、手付かずのままの状態が続いている。
- しかしながら、オリンピック開催のために急遽整備された路面電車、地下鉄、郊外鉄道、高速道路、空港などにより、交通網は整備され、またアテネ五輪効果により 2004 年以降観光客は増加していた。（2008 年秋の世界経済危機により 2009 年は減）
- 現在も経済状況は低迷しており、対 GDP 比 12.5% の大きな財政赤字や 8.6% の高い失業率があり、またアジアからの難民流入問題などもある。特に財政赤字は欧州委員会からも是正を強く求められており、10 月に成立した新政権の喫緊の課題となっている。



ダスカラキ助役と